



室蘭言泉学園の施設を見て回る韓国・マーガレット社会福祉会の視察団

障害者福祉相互理解

日韓交流 絆深まる

海外から初視察団 室蘭言泉学園

韓国のマーガレット社会福祉会（キム・ギジュン代表）視察団が、社会福祉法人室蘭言泉学園（菅野登一郎理事長）を訪れた。日韓交流の一環として、両国の福祉サービスにおける共通点や違いについて情報交換、同学園が運営する施設見学などを通じて、日韓の相互協力を深める動きが広がっている。

（小笠原皓大）

同学園が海外からの視察団を受け入れるのは初めて。日本の障害者向け福祉施設を実際に見学し、運営やサービスを学ぶ目的に来道した。キム代表や施設長ら10人の視察団は昨年11月に同学園を訪問。「互いの良いところを吸収し合い、有益な視察にしたい」と語った。

視察は、両施設の事業や取り組みを紹介したあと、同学園が運営する児童養護施設わかすき学園、共同生活援助事業所「くるみホーム」、活動支援施設「あけぼの」などを回った。菅野理事長らが施設内の部屋や設備を案内したほか、利用者の過ごし方を伝えた。視察団メンバーからは入居費用や食事など入居に関すること、職員の就業時間や給与体制まで多岐にわたる質問が飛び交った。「職員が暴力を振るわれたことはあるか」の質問に対し「運営する施設で入居者、職員双方に虐待があったというケースはない」との回答には感心した様子を見せた。

最後にキム代表は、韓国への視察を呼びかけ、職員同士の交流の場を設けることを菅野理事長に求めた。「利用者を大切にしていると強く感じた。現場で働く職員同士の会話の場をつくりたい」と話し、菅野理事長は「現状（視察は）すぐに決められないが、必ず実現させたい」と握手を交わし、互いの発展を約束した。